

第1回意見交換会での検討事項について

① (仮称) アクティブラーニングルーム及び(仮称)ワークショップルームについて

◎(仮称)アクティブラーニングルームについて

検討課題	ご意見 (課題・改善点など)
(仮称)「アクティブラーニングルーム」の利用促進について (設備、備品、仕掛け、PR方法等)	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスカッションを推進するために、以下の設備は必要。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード or フリップチャート (紙にたくさん書いて、周りに貼っていくような使い方に便利です) (テーブル数分) ・PC とモニター (PC には Office ソフト必要) ・PC 1 台とあったが、PC は調べるだけでなく、アウトプットを作る、プレゼンにも使えるので、テーブル数分は最低限必要。 ・小中学校と連携して、学校教育の一環として、ルームを利用してもらい、そのときに、自分たちでも予約して使えることも説明する。 ・予約システムはネット経由で小学生も簡単に予約できるような UI とする。また、学校の図書室からも予約できるようにする。 ●ルームには、書籍は不要な気がする。活動を行う場所として広く使えると良い。 ●関係あるものとして「コミュニティラーニング」に取り組んでいる例がみられる。(地元の商店街に協力してもらったりとか、伊那市立図書館の「屋根のない図書館・博物館」の取組みを受けてコミュニティラーニングに取り組んだりとか、小学生が地域を歩いてグループで手書きの地図を作るなどの取組み) ●台東区の図書館では、郷土資料室や池波正太郎関係の資料を活用した、台東区内の地域や文化などに関する調べ学習などが考えられる。
(仮称)「アクティブラーニングルーム」の名称について	<ul style="list-style-type: none"> ●「アクティブラーニング」という言葉が浸透しているかは疑問。グループでいつでも活用できるフィールドであることが伝わる名称が良い。 例)「コラボレーションラーニングルーム」「チームラーニングルーム」「チームラーニングオアシス」「チームチャレンジルーム」「クリエイティブラーニングハブ」 ●「アクティブラーニング」の名称は、まだ馴染みがない言葉だと思うので、他の表現にした方がよい。「アクティブラーニング」は、教育方法としてこれからの時代に必要なものだが、小中高の先生を養成する大学の先生方も現場の先生方も苦慮していて、試行錯誤を繰り返している状態かと思われる。これから徐々に経験が蓄積されて、効果的な教育方法として定着していくのではないか。名称は、「みんなで学習 in 中央図書館」など、日本語の方がいいと思う。

◎(仮称)ワークショップルームについて

検討課題	ご意見（課題・改善点など）
<p>(仮称)ワークショップルームの利用促進について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●区民に知っていただき、まずは参加したり、利用していただくことが大切 ・世代別や多くの区民が興味を持つテーマについて、定期的にイベントを実施する。 ・設置予定のサイネージなども活用し周知する。SNSなども活用して周知する。 ・小中学生向けのイベントの企画は区が検討したとしても、その具体的な運用について検討から実施まで、生徒に参画してもらう。 ・参加者に具体的なメリットがあるイベントを行う。(例：インボイス制度への対応、確定申告のやり方、ふるさと納税のやり方(台東区のふるさと納税を使ってもらう)、マイナンバーカードの作り方(アプリの使い方)、すぐできる省エネ、高校受験や大学受験に向けた勉強法説明会等) ●ワークショップルームの名称も「図書館のみんなの広場」など、いまひとつ考えた方がいいと思う。
<p>イベントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館主催イベント ・共催イベント ・区民のイベント募集と手続き、支援 	<p>《主催イベント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●その時に旬なテーマの本を紹介するイベント。そこに専門家や本の作者より話をしていただく。 ●小学生低学年向けの本を紹介するイベント(楽しい本の探し方講座) ●小中学生の自由研究に役立つ本を紹介するイベント <p>●ペープサートや指・手袋人形劇、パネルシアターなど、ホールのような広い場所でない身近な形でのお話会。(絵本の読み聞かせを行ってからのミニ劇場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書館ナイトツアー(夏休み・冬休み)季節のお話を楽しみながら。 ●図書館内スタンプラリー ●読み聞かせの講習会(保護者向け・保育あり) <p>●学習指導要領が改訂され、新しい教科書では、各種の課題が設定され、取り組むようになっている。(例えば、中学校地理の教科書では、地域の課題について調べ、課題を見つけ出し、それについて解決策を考える。高校の情報科では、デジタル絵本を作成して、ネットにアップするなど。)こうした教科書の課題について、「調べ案内」(パスファインダー)を作成することが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●成人向けの学び直しとしては、教科書の課題等に取り組むとか、資料・情報の調べ方、ネットワーク上のデジタル資料の調べ方、情報モラルなどについて講座やレクチャー会を開催するなどがある。 <p>《共催イベント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●その時に旬なテーマに関連する団体との共催イベント (例：デフリンピック：聴覚障害者支援団体など、上野の博物館や美術館、藝大との特別展関連イベント：各美術館・博物館・藝大) <p>《区民企画イベント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●区民からのイベント募集はとても良い取り組みだと思う。広く区民が自ら活用していくのが望ましい姿ではないか。 ●手続きは、ネットで簡単にできるようにすることが必要。 ●周知することが一番の支援だと思う。また、さまざまな年代や障害者でも参加できるような設備面、運用支援も重要。 ●台東区の場合、地区の歴史や生産物、お店、商店街、問屋、神社、お祭りなど、特徴的なものがみられる地域なので、さまざまなテーマで調べている個人、グループがあると思われる。それらの個人、グループに、研究成果等を発表してもらうといい。

②読書バリアフリー環境の充実について

検討課題	ご意見（課題・改善点など）
障害のある方も利用しやすい図書館について	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者が障害を感じることなく利用できることが理想だと考える。例えば、車椅子であれば、専用コーナーだけでなく、通常の閲覧席でも利用できるような工夫があっても良いのではないかと。
バリアフリーコーナーのレイアウトや設備・運用面について	<ul style="list-style-type: none"> ●コーナーの設備がどの程度ニーズがあるのかを理解していないが、多くニーズがあるようであれば、上記の車椅子同様に特別なコーナー以外でも利用できるようにするのが良いのではないかと。
バリアフリーコーナーの利用促進について	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者のサポートをしている NPO や、各種学校などにヒアリングを行い、こういった設備やサービスであれば、気兼ねなく図書館を利用できるか意見を収集するのはどうか。その意見を実現した場合、その意見を出した団体や関連する団体に周知することで、多くの方に利用していただけるのではないかと。 ●何か小さくても良いので、全国初のサービスや設備を導入する。それを NHK などの TV のニュースとして取り上げてもらう。 ●SNS の活用（そういった団体の FB など）により、周知する。上記のニュースは非常に宣伝になると思う。
職員の育成について	<ul style="list-style-type: none"> ●法に基づき国が基本計画（「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」令和 2 年）を作成して推進している。各自治体に取組みを進めるよう促しているため、計画に基づいた研修等も行われていると思う。図書館員は継続して研修に参加し技術等を高め、その成果を生かすようにしたいと思う。 ●法律では、デジタルネットワークを利用したサービスも行うようになっているので、その面でも、職員の育成が必要だと思う。
障害のある子どもへの配慮について	<ul style="list-style-type: none"> ●障害の状況（身体的なものや発達障害など）によって、環境への配慮は異なってくるため答えが難しいが、近くのトイレにおむつ替えコーナーがあると、心身ともに移動に大変な方も安心かと思われる。 ●書棚の高さが低いことで車いすの方は手が届きやすく、発達障害のお子さんが動きまわってしまっても見つけやすいかと思う。 ●発達障害のお子さんが一人で出て行かないようにドアの鍵が子どもが開けられない高さや構造になっていると保護者は安心。 ●丈夫で感触が楽しめる本であると扱いの難しいお子さんでも、保護者が気を使うことなく触れることができるのではないかと。

③魅力ある書架づくりについて

検討課題	ご意見（課題・改善点など）
利用者にとって魅力ある書架や特集コーナーについて	<ul style="list-style-type: none"> ●来館者に”気づきを与えることができる”ことが魅力的な書架や特集コーナーだと思う。 ●探すのは、探す端末を多く配置すれば良いと思う。 ●検索した本で閉架中の本は、お願いしたらすぐに取り出してもらえると良いのではないか。（本棚を低くしたら、より開架の本が減るので） ●特集コーナーのテーマのリクエストを受け付けてはどうか。 ●特集やビジネス、新刊コーナーの近くに専用のサイネージを設置して、特集の書籍や新刊の一覧や表紙を表示するとよいと思う。 <p>●NDCは、1800年代後半の社会を前提に作られたものなので、枠組みが古い。そのため、各図書館がいろいろ工夫して、住民の意識や考え方、社会の枠組みにできるだけあうような配架を実現するよう努力してきた経緯がある。最近の成功例としては、札幌市立図書・情報館の試みがある。NDCによらないテーマ別配架を一部で採用してそれが図書館の魅力のひとつとなっている。その際、各分野の専門家の意見を聞きながら範囲や中身を決め、図書館で考えて、本を配架するという方法をとった。台東区でも、住民の意識や考え方、地域の伝統などにあうよう、地域の専門家や区役所職員など、テーマに関する専門家の意見も聞きながら組み立てるといい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雑誌もテーマ別に分けて、同じテーマや近いテーマの本と同じ並びの本棚にならべるようにするといい。 ●本棚は、分野別の本の発行点数の変化や、本の展示や並べ方によって、毎年、あるいは季節によって動かす必要が生まれるので、本棚の表示板は、すぐに変えることができるような簡易な表示方法の方がいいと思う。

④その他

検討課題	ご意見（課題・改善点など）
公園との一体化について	●金竜公園のリニューアルも同時に実施してはどうか。公園の中に気楽に本が読めるようなイスなどを置いたり、公園での読み聞かせ会やイベントなども実施できるようにしてはどうか。公園と一体感を持たせて、自然の光と木の温もりを感じる新しい図書館のコンセプトをより良いものにできるのではないかと思う。
1階と2階の本の配置の見直しについて	●1Fと2Fの本の配置を見直し、中高生でも大人の本を見る機会があり、大人でも中高生の本を見る機会を作ってはどうか。そういったことが、気づきを得ることにつながると思う。（バリアフリーに反する面もあるが・・・）
階段の活用について	●階段をもっとオープンな明るいものにして、棚などを作り、テーマに沿った本の紹介や、イベントの案内をするのはどうか。
視聴覚資料について	●視聴覚のコンテンツは、ネットワーク上のデジタルコンテンツに移行し、従来のパッケージの占める割合は少なくなり、これからはもっと少なくなると考えられる。館内で視聴する機会は少なくなるので、それに合わせて面積は縮小する案はいい。図書館として契約する有料のネットワーク上のデジタルコンテンツの視聴はタブレットで可能なので、Wi-fiを整備して、館内どこでも視聴できるようにするといい。